

ぐんまで頑張る職業人の熱意をレポート!

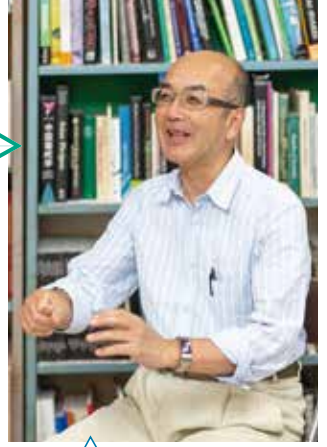
柴崎龍吾の課外授業

Vol.36

うすい学園代表取締役の柴崎龍吾が街に飛び出して、元気に働く人にインタビュー。子どもたちのために、職業の多様性や働くことの意味を毎号レポートしていきます!



エフエム群馬にてインタビュー内容を放送中! 毎週月曜 ワイド番組「ユウガチャ!」内 16:41頃~



うすい学園代表取締役 柴崎龍吾

大学在学中に劇団を主宰し、卒業後は放送作家として活動。1975年に個人塾「横川学習塾」を開校し、以降、うすい学園を展開。子育てや教育に関する著書多数、ラジオ番組出演中。

国内唯一の機関としての役割 毒ヘビの抗毒素血清の研究

柴崎 今回の回は、太田市のジャパンスネークセンターを運営する、一般財団法人日本蛇族学術研究所で、主任研究員を務める塚淳所長代理にお話を伺います。まず、研究所の活動内容を教えてください。

塚 ヘビ毒の人への作用の研究と、動物を使った血清による治療実験、そしてスネークセンターに展示する毒ヘビの飼育をしているほか、ヘビやトカゲ、カメ、ワニなどの引き取りも行っています。随時、子ども向けのふれあいイベントや、一般の人だけではなく、医療機関向けの毒ヘビ対策研修も実施しています。

柴崎 塚さんがヘビに興味を持ったきっかけは何だったのでしょうか?

塚 大学では生物学を学んでいて、ヘビも飼うことはありました。蛇研に入り、ヤマカガシが毒ヘビであることが知られていないことや、その毒についてほとんど研究され

ていなかったことを知り、ヘビ毒の研究を始めました。柴崎 ヤマカガシの毒の研究や、同研究所の役割について、塚さんのご意見をお聞かせください。

塚 私たちは医師ではないので、直接治療に関わることはできませんが、毒の研究や治療実験の研究によって得たデータからアドバイスをすることはできます。

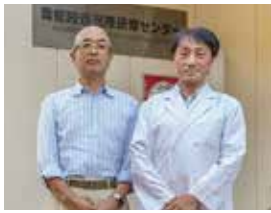
南西諸島を除いて毒ヘビはマムシとヤマカガシですが、ほとんどそれらの研究をしている人は国内にはいません。これらの毒ヘビ及びヘビ毒についての研究成果や、咬症について非常に多くの情報を持っている国内唯一の機関として様々な啓蒙活動を行い、また、そのことに誇りを持っています。

柴崎 頼もしいお言葉ですね。実際、全国の医師から助言を求められる機会も多いので



今月の職業人

一般財団法人日本蛇族学術研究所 主任研究員 塚淳さん



▲ヘビは日常であまり見たり触れたりする機会がないので、一見遠い生物だと思われるがち。しかし、畑や公園、茂みの中と至るところに生息している。危険性を理解し、身近な存在として対策しなければならぬ、と真剣な表情で話した
◀5人の研究員を中心に少数精鋭でヘビ飼育、研究にあたる。今年、大学でヘビ研究をしていた若手2名が入所。後継者として期待していますと笑った

はないでしょうか。塚 緊急時からヘビの種類判別など小さな問い合わせまで、数多くいただいています。医師もいますが、自宅やキャンプ中にヘビと遭遇した、一般の方からのSOSも多そうですね。昨年、ヤマカガシに咬まれて2名の小学生が重症になりましたが、血清により回復しました。

ヤマカガシの場合には、腫れも痛みもなく、すぐには症状が出ないため診断が難しい場合があります。また、ヤマカガシ抗毒素血清は、国内10カ所にしか保管してありませんので、診断のアドバイスだけでなく、血清の手配なども行うことがあります。

柴崎 毒ヘビに咬まれて死亡する恐れもありますから、責任は重大ですね。研究面でご苦労されている点はありますか?

塚 近年はヤマカガシが目立って減少し、抗毒素の原料となるヘビ毒を集めるのが難しくなっています。原因は、餌となるカエルが減ったためです。

柴崎 研究を続けるのも大変ですね。生物学者を目指す子どもたちに向けて、何かメッセージはありますか?

塚 正直、生活は大変です。就職先も限られます。けれど毒蛇咬症の診断や治療に役立つことができるなど、やりがいを感じる瞬間もたくさんあります。もし興味があれば、いつでも相談のりしますので、一緒に頑張りますよ!

柴崎 ありがとうございます。では、塚さんの今後の目標を教えてください。

塚 一般の方だけでなく医療関係者にも毒ヘビの危険性をより広く伝えていきたいです。そのためには、ふれあい体験や講習会を通して、正しい知識を啓蒙していきたいと思っています。

柴崎 ヘビ以外にも、コイ、セミ、タコなど、これまでさまざまな動物を飼ってきたという塚さん。動物好きの優しい一面と、毒ヘビに携わる強い責任感から発せられる厳しい表情とのギャップが印象的でした。それはまた次回!

